みどりの基本計画づくり ワークショップNEWS

Vol. 2

令和８(2026)年10月
発行：世田谷区みどり政策課

第２回ワークショップを開催し、将来の世田谷に残したい、育てたいみどりの姿を考えました

世田谷区では、令和10（2028）年4月の「みどりの基本計画」改定に向け、全3回のワークショップを開催しています。
第2回では、第1回で出された意見を踏まえ、将来の世田谷に残したい、育てたいみどりの姿を話し合いました。

日　時 ｜ 令和８(2026)年9月13日（日）10:00～12:30
場　所 ｜ せたがやイーグレットホール 集会室A
参加者 ｜ 27名

当日の流れ

1 第２回ワークショップについての説明

第１回ワークショップでいただいた意見の振り返りや、第２回ワークショップの目的や進め方について、事務局から説明しました。

2 グループワーク（全３ターン）

参加者が自由にテーマを選択するワールドカフェ方式にて、グループワークを３ターン実施し、今後、みどりがどうなって欲しいか、そのためには誰が関われればいいのかを、テーマ毎に考えました。




3 テーマごとに発表

５つのテーマごとに、３ターンのグループワークを通して意見交換した内容を発表しました。




■グループワークの流れ

各ターンは、以下の流れで進行し、全3ターンで将来像について意見を深めました。

STEP１　テーマを選ぶ

- 第1回で出された現状と課題を踏まえて設定された５つのテーマから、各自興味のあるテーマを選択

A ： 川・水辺・崖線など、まとまりのあるみどり
B ： 住宅や身近な暮らしの中のみどり
C ： 農地・屋敷林・社寺林など、地域に受け継がれてきたみどり
D ： 駅周辺・商店街・道路など、市街地のみどり
E ： 人とみどりとの関わり・協働

STEP２　第１回ワークショップの意見を共有

- テーマごとに、第1回ワークショップでいただいた主な現状と課題を、グループ内で共有

STEP３　実現したい姿と、その理由を考え、みんなで「将来像」を整理する

- 現状と課題をふまえて、まずは参加者それぞれが、「実現したい姿」とその理由として「なぜ大切にしたいか」を考え、付箋に記入
- 次に、グループ内で付箋を共有し、共通するキーワードを整理しながら、より大きな方向性を示す「将来像」をみんなで検討

STEP４　将来像の実現に関わる人を考える

- 将来像の実現に関わる人を考え、付箋に記入して整理シートに整理

次のテーマに移動

改定のスケジュール

ワークショップ
済 第1回 8/8
済 第2回 9/13
第3回 10/31
パブリックコメント

現在（令和９（2027）年３月）
課題把握 → 骨子検討（計画の枠組み） → 素案検討（具体的な取組み） → 案検討 → 改定（令和10（2028）年３月）

お問い合わせ ｜ 世田谷区みどり３３推進担当部　みどり政策課
電話：０３－６４３２－７９０５　FAX：０３－６４３２－７９８９

グループワークでいただいた主な意見

実現したい姿	めざしたい将来の姿	実現に関わる人・団体

A 川・水辺・崖線など、まとまりのあるみどり

- 多摩川でカヌー・カヤックをしている
- 子どもだけでなく多世代がプレーパークを活用している
- 砧公園でボランティア活動している
- 芦花公園でドッグランを継続している
- 崖線周辺の湧水・歴史を知るツアーを開催している
- 雨に対して貯留池等で防災強化している

1. 雨・浸水から地域を守るため、湧水や河川を生かした雨水貯留・防災機能が強化されている
2. 持続可能な保全に向け、行政と住民が役割を分担する管理体制が整っている
3. 水辺や崖線の価値を伝えるため、その魅力や歴史、安全性が広く認知されている

【区民・子ども】
カヌー体験やプレーパーク利用

【ボランティア】
公園の手入れ・ツアー参加

【行政】
防災貯留施設の整備

B 住宅や身近な暮らしの中のみどり

- 庭の管理をしたい人と、庭はあるけど管理できない人がマッチングしている
- プランター菜園、植木鉢でもできるみどりづくり等をしている
- 緑道の手入れをボランティアでしている
- インスタ等で庭づくりの手本を発信している

1. 管理困難な緑を守り地域で支え合うため、緑化したい人とできない人をつなぐ仕組みが定着している
2. 誰でも主体的に関われるようにするため、気軽に関われるきっかけが生まれている
3. 日常の中で無理なく緑化を楽しむため、緑化方法が周知され、住まいや身近な空間での緑化が広がっている

【区民・庭所有者】
庭の整備、緑道の手入れ参加

【NPO・専門家】
マッチングコーディネート

【行政】
きっかけづくり・広報発信

C 農地・屋敷林・社寺林など、地域に受け継がれてきたみどり

- 屋敷林・社寺林巡りツアーが開催されている
- 相続税の負担を減らす取組みや、市民緑地、農業公園の整備など支援や保全の取組みが充実している
- 直売所での地産地消の取組みがされている
- 落ち葉の活用・農地に雨水を浸透させる洪水対策がされている
- 学校菜園で有機栽培を実施し、収穫した野菜を使った給食の提供や、調理実習が行われている

1. 世田谷らしい貴重なみどりの風景を次世代へつなぐため、支援が充実し、地域全体で支えている
2. 学校菜園や直売所の活用に加え、落ち葉活用や、雨水浸透など、自然の恵みを享受し、資源が循環する街になっている
3. 農や自然を体験し、学べる機会が充実している

【農家・地権者】
継承・学校菜園の直売所の場提供

【学校・子ども】
自然教育、農業体験、イベントへ参加

【行政・トラスト】
制度支援、各主体との連携

D 駅周辺・商店街・道路など、市街地のみどり

- 駅前緑化とベンチ設置が行われている
- 商店街に植木鉢や花ポットが設置されている
- 道路が公園化されている
- 世田谷通りの街路樹が再生されている
- 区民が自主的に動くトラスト運動が行われている

1. 街の賑わいと魅力を高めるため、駅前や商店街が緑豊かで人が集う場になっている
2. 猛暑対策や安全確保のため、幹線道路の森化や道路公園化が進んでいる
3. 街のみどりを地域で育てるため、住民・店舗・来訪者の協働管理やトラストが定着している

【区民】
駅前ベンチ利用・トラスト活動

【商店街・店舗】
店頭の花ポット管理・集客

【行政】
街路樹再生

E 人とみどりとの関わり・協働

- ご近所協働の花壇づくりが行われている
- 堆肥をつくり、農家など必要とする人へ提供している
- 緑化活動を動画配信し、剪定技術等を共有している
- 活動日時（平日・土日に分ける等）が柔軟になっている
- 公園でのNPO活動の制限が緩和されている

1. 地域や多世代の繋がりを育むため、緑化活動を通じた交流が生まれている
2. 気軽な参加を促すため、柔軟な参加枠や動画での技術共有でハードルが下がっている
3. 本来の自然環境を守るため、区民・NPO・企業・行政の協働体制が確立されている

【区民】
花壇づくり・ボランティア

【NPO・活動団体】
動画等での技術共有・イベント企画

【行政】
参加枠拡大・公園利用規制の緩和